

『あなたは何を愛しますか？』

'21/09/05

聖書箇所: マルコの福音書 14 章 1-11 節 (新約 p.95-)

皆さんは今、何を一番に愛しておられますか？…また、皆さんは、何のために、その貴重な時間やお金を使っておられますか？…神様の言葉である聖書は、「まずは、あなたの造り主である神を一番に…、しかも全身全霊の愛をもって愛しなさい！(そして、)次には、あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい！」ということをお教えていますか？…でも、私たちが住んでいるこの世は、それとは逆に、こういったことを教えるでしょう、「まずは、あなた自身のことを愛しなさい！一番に優先しなさい！」って…。

命題: あの過越の時、彼らは何を考え、どのように行動したのでしょうか？

今日のみことばは、この聖書の教え通り、神であられるイエス様のことを一番に愛した女性や…、それ以外のものを愛し、優先していった者たちのことが教えられています。今日私たちは、マルコ 14:1-11 のみことばから、あの過越の時、3人と言うか、3種類の者たちが何を愛し、どういった行動を取ったのか？ということを中心に学んでいきます。

願わくは、今日このメッセージを聞いてくださった皆さんが、神様のみことばに従って、まずは、真の神様のことを信じ…、また、その神様のことを一番に愛することによって…、神様に喜ばれ、神様の素晴らしい栄光を現わすような者として用いられていくことを願います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるマルコ 14:1-11 の部分をお開きください。

I・祭司長と律法学者たちの選択と行動！(1-2 節)

どうぞ、まずは、この当時の宗教家であった、「祭司長」と「律法学者」たちの取った選択や行動について、観察していきましょう。祭司長たちは、何を愛し、優先したのでしょう？今日のみことばの内、1-2 節には、このように記されています。

- さて、過越の祭り種なしパンの祝いが二日後に迫っていたので、祭司長、律法学者たちは、どうしたらイエスをだまして捕らえ、殺すことができるだろうか、とけんめいであった。
- 彼らは、「祭りの間はいけない。民衆の騒ぎが起こるといけないから」と話していた。

●このタイミングとは？⇒ 過越の目的！

どうぞ、今読んだ 1 節に注目してみてください。…そこには、『過越の祭り種なしパンの祝いが二日後に迫っていた…』とありますので、ここ 1-2 節に記されている出来事が、あのイエス様が十字架にかかられる 2 日前…、つまり、水曜日のことであるということが分かります。

さて、ここに記されている『過越の祭り種なしパンの祝い』について、簡単に説明させてください。これらの祭りは、元々は別のお祭りであったようですが、聖書には、多くの場合、同じタイミングと言うか…、同じような祭りとして扱われています。

あのモーセの時代、イスラエルの民たちは、エジプトで奴隷のように虐げられておりました。…そんな時、イスラエルの叫びを聞いて、天の神様があのエジプトからイスラエルの民たちのことを救い出してくださいました。その時、天の神様は 10 種類もの災いをエジプトに下され…、その最後、10 番目の災いは、エジプト中の家から、すべての人間や家畜に至るまで、すべての初子(つまり、長男)がたった一晩の内に亡くなってしまったという、凄惨なものでした…。

しかし、その時、天の神様からの教えで、イスラエルの民たちは、1 歳の雄羊をほふって、その羊の血をその家の門柱とかもいかに塗ります。そうすると、何と、「すべての家の初子が亡くなってしまったという災

い」は、その家を「過越して」、その家の初子たちが死んでしまうことはありませんでした。そのようにして、天の神様は、イスラエルのことを守り、エジプトから脱出させてくださったのです。「過越の祭り」とは、そのような神様の恵みを記念して、毎年行なわれていた、とても重要なイベントであったのです。

次に、『種なしパンの祝い』と言いますのは、そのエジプトからイスラエルの民たちが脱出する時、彼らにはパンをゆっくり発酵させる時間がありませんでした。そのため、イスラエルの民たちは、パン種を入れていないパンを食べ…、それを持って、エジプトから脱出していったからです。「種なしパンの祝い」と言いますのは、あの過越の祭りと一緒に、その昔、エジプトから、イスラエルを救い出してくださいました神様を覚えるためのお祭りと言うか、一大イベントであったのです。…神様がイスラエルを救うために、どれほど、たくさんのご恩をなしてくださいましたか、そういったことをご存知ない方は、ぜひ一度、出エジプト記を読んでみてください。

その出エジプト記で、神様はイスラエルに対して、このように命じておられます。『13 あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。14 この日は、あなたがたにとって記念すべき日となる。あなたがたはこれを【主】への祭りとして祝い、代々守るべき永遠のおきてとしてこれを祝わなければならない。15 あなたがたは七日間種を入れないパンを食べなければならない。…』(出エジプト記 12:13-15a)と続いています。

良いのでしょうか？皆さん。…天の神様は、こういったイベントを通して、何をイスラエルに期待しておられたのでしょうか？⇒それは、彼らイスラエルの民たちが、自分たちのことを、あのエジプトから救い出してくださいました神様のことを覚え、その神様をあがめるためであったはずですが。…そうじゃありませんか？…にも関わらず、その祭りを 2 日後に控えていた時、当時の祭司長たちは、どんなことを考えていたのでしょうか？

●祭司長たちの目的！

どうぞ、今度は 1 節の後半と 2 節をご覧ください。…本来、1 年の中でも最も神様のことを覚え、その神様に感謝を捧げるべき、祭りのタイミングで、祭司長たちは、「どうしたら、あのイエスを「だまして捕らえ、殺すことができるだろうか」と、懸命であった…」と言うのです。…あきれませんか？

この時、祭司長たちの計画は、こうでした。…2 節、『彼らは、「祭りの間はいけない。民衆の騒ぎが起こるといけないから」と話していた。』…つまり、当初、祭司長たちの計画では、祭りの間は、地方の至るところから、大勢の者たちが、このエルサレムに集まってくるから、「過越の祭りが終わってから」、あのイエスのことをだまして、殺してしまおう！というものであったのです。

しかし、皆さんはご存知です。つい、祭りの 2 日前まで、祭司長たちは、過越の祭りが終わってから、イエス様を葬ってやろうと企んでおりました。…でしょ！…しかし、実際に、イエス様が十字架にかけられたのは、過越の祭りの当日でありました。

…と言いますのも、実は、イエス様こそ、あの過越の祭りの時に捧げられた子羊の最終的な完成形であったからです！…祭司長たちの計画と、神様の御計画とは違っていたのです！…皆さん、あのバプテスマのヨハネは、公生涯に入られた直後のイエス様を見た時、何と表現しましたか？⇒ヨハネ 1:29 に、こうあります、『その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く“神の小羊”。』』って…。

つまり、イエス様こそは、本当ならば、自分たちの罪のゆえに裁かれなければいけなかった私たちの罰を、身代わりを受けるため、神様が備えてくださった“神の小羊”であられたのです！…ここで、また、簡単に新改訳聖書の漢字表記について説明させてください。…実は、私たちが使っている新改訳の第 2 版でも第 3 版でも、旧約で「こひつじ」と言った場合、その漢字は、「子どもの羊」と表記されています。しかし、新約聖書で「こひつじ」と言う場合は、「小さな羊」と書いて、旧約の「子羊」とは区別されています。しかし、新改訳 2017 では、旧約でも新約でも、「子どもの羊」という漢字表記が採用されて、一貫

されるようになっていきます。

II・ベタニヤの **マリヤ** の選択と行動！(3-9節)

さて、今度は、**ベタニヤ村に住んでいた“マリヤ”**が取った**選択と行動について**見ていきましょう。どうぞ、今度は、今日のみことばの内、3-9節をご覧ください。そこには、こう記されてあります。

- 3 イエスがベタニヤで、ツアラアトに冒された人シモンの家におられたとき、食卓に着いておられると、ひとりの女が、純粋で、非常に高価なナルド油の入った石膏のつぼを持って来て、そのつぼを割り、イエスの頭に注いだ。
- 4 すると、何人かの者が憤慨して互いに言った。「何のために、香油をこんなにむだにしたのか。」
- 5 この香油なら、三百デナリ以上に売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」そうして、その女をきびしく責めた。
- 6 すると、イエスは言われた。「そのまましておきなさい。なぜこの人を困らせるのですか。わたしのために、りっぱなことをしてくれたのです。」
- 7 貧しい人たちは、いつもあなたがたといっしょにいます。それで、あなたがたがしたいときは、いつでも彼らに良いことをしてやれます。しかし、わたしは、いつもあなたがたといっしょにいるわけではありません。
- 8 この女は、自分にできることをしたのです。埋葬の用意にと、わたしのからだに、前もって油を塗ってくれたのです。
- 9 まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」

●このタイミングとは？⇒著者である聖霊とマルコの意図！

今度、ここでは、ベタニヤ村に住んでいた、あのマリヤのエピソードについて記されてあります。確かに、ここマルコ伝には、この女性の名前について記されてありませんが、この平行記事であるヨハネ伝 12章を見ると、この女性が、ベタニヤのマリヤであったことが分かります。

実は、その**ヨハネ 12章のみことばを見ても、こうあります。『1 イエスは過越の祭りの“六日前に”**ベタニヤに來られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。2 人々はイエスのために、そこに晩餐を用意した。そしてマルタは給仕していた。ラザロは、イエスとともに食卓に着いている人々の中に混じっていた。3 マリヤは、非常に高価な、純粋なナルドの香油三百グラムを取って、イエスの足に塗り、彼女の髪の毛でイエスの足をぬぐった。家は香油のかおりでいっぱいになった。』(ヨハネ 12:1-3)と続いています…。

⇒皆さん、気付いてくださいました？…このみことばを読むと、実は、マリヤがイエス様に香油を捧げたのは、過越の祭りの6日前、つまり、イエス様の一行がエルサレムの町に入城される直前であったことが分かります。…なのに、どうして、マルコは、この福音書を書き記すに当たって、この出来事を、実際に起こった順番通りではなくて、それをわざわざ、後になって書き記したのでしょうか？…ついうっかり、書き忘れたのでしょうか？…いいえ。もちろん、そうではありません。聖書のみことばの背後にいる…、本物の著者は聖霊なる神様ですが、それと、実際の著者であるマルコの“意図”について考えてみましょう。

その理由は、大きく分けて2つあると思われます。1つは、先程見た…、当時の祭司長たちがイエス様を殺そうとしていた陰謀が、本当は、過越の祭りの後のはずだったのが、このマリヤの起こした献身的な行動によって、少し早まったので、その説明をするためです。そのことについては、この後で見えていきます。…そうして、もう1つの理由は、このマリヤと祭司長たち…、そして、イスカリオテたちとの対比をして、彼らの違いというものを、より一層際立たせるためであったと思われる。

●マリヤの 目的 ！

さて、この時、そのベタニヤのマリヤは、大変高価なナルド油を持って来て、そのつぼを割って、イエス様の頭に注いだとあります。実は、この『ナルド』という植物は、「おみなえし科」の植物だそうで、大変、良い香りが長く続くのだそうですが、現在では、かなり、入手困難だそうです。しかし、実は、このナルドは、この当時から、大変高価で、この当時から輸入でないと手に入らなかったそうです。

さて、この時、ベタニヤのマリヤは、その香油の入っていたつぼを割って、イエス様の頭に注いだわけですが、そのナルド油の価値は、おおよそ 300 デナリであったそうです。1 デナリは、おおよそ、1 日分の労働賃金ですから、300 デナリと言えば、約 1 年分の年取にも相当します。

しかし、それを見た「何人かが憤慨した」と今日のみことばは教えます。しかし、実は、平行記事のヨハネ 12 章を見てみると、そのことを最初に言い出したのは、弟子のイスカリオテだったそうです。一体、マリヤは、何のために、そんなことをしたのでしょうか？⇒そのことに関して、今日のみことばで、イエス様は、こう教えてくださっています。6 節以降、「それは、わたしのためだ！…この女は、自分にできることをしたわけで、しかも、それは埋葬の用意にと、イエス様のからだに、前もって油を塗ってくれた…」とあります。

…と言うことは、マリヤは知っていたことになります！もう間もなく、イエス様が殺されて、埋葬までされるということ…。そうですよね？…もちろん、イエス様は、ここに至るまで、最低でも3度、弟子たちにそういったことを予告して下さっていました。…しかし、彼ら弟子たちは、そういったことについて、イマイチ、よく理解できていませんでしたよね？…なのに、マリヤは、そういったことを弟子たち以上に、よく理解できていたのでしょうか？…恐らく、そうだと思います。

7 節で、イエス様がおっしゃっておられるように、確かに、貧しい者たちに施しをすることは、いつでも…、できました。しかし、イエス様に捧げ物をすると言うか、恐らく、兄弟のラザロを生き返らせて下さったことのお礼であったのかも知れません。また…、イエス様の埋葬の準備をしてあげられるのは、これが最後のチャンスでした。

●マリヤが得た 報酬 ！

さて、どうぞ、今日のみことばの 9 節で、イエス様がおっしゃられたみことばに注目してみてください。…ここで、イエス様は、『まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。』ということをおっしゃってくださいました。…この時、マリヤが、イエス様のために捧げたナルドの香油は、おおよそ、300 デナリ。計算しやすいように、300 万円と考えてみてください。現代で言えば、普通車 1 台分といった感じでしょうか？

皆さん、どう思われます？…この時、あるいは、これ以降…、マリヤは、その 300 万円に相当するような見返りを、何か手にしたでしょうか？⇒いいえ…、聖書には何も書かれていないので分かりませんが、恐らく、この後で、マリヤが、何か特別な見返りを与えられたか？と言うと、そうではなかったと思います。しかし、このマリヤの美談？は、当時から約 2000 年経った今でも、このように語り継がれています。

このように、天の神様は、私たちにたくさんの“霊的な祝福”をもって、私たちに報いてくださいます。…具体的に言うと、まず、このマリヤは、イエス様のことを信じたことで、救いと言う、自分の力では決して得ることができない罪の赦し…、神様との和解を手に入ることができました。しかも、それだけではありません。彼女は、天において、自分が犠牲にした以上のほうびが与えられたはずで…と言いますのも、例えば、イエス様は、**マタイ 19 章で、あの金持ちの青年役人に、こう教えてくださっています、『もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あな**

たは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。』(マタイ 19:21)って…。確かに、この時、マリヤは、貧しい者たちに寄附したわけではありません。しかし、それよりも、はるかに素晴らしい…、イエス様に喜ばれることを、マリヤはしたわけで、きっと、神様は、それ以上のほうびを天で用意してくださったのではないのでしょうか？

実に興味深いもので、天の神様が祝してくださいますと、その人たちは、犠牲にしたものでは得られないような喜びや感謝…、あるいは、平安でもって満たされます。皆さんも、そういったような経験が無いでしょうか？

例えばね、皆さん。もしも、この時、マリヤが、イエス様にナルド油を捧げる代わりに、何か、高級なものを手に入れたとします。例えば、家でしょいか、あるいは、高級なバッグでしょいか。確かに、そういったものは、一時的に、私たちに幸福感やある種の満足を与えてくれるかも知れませんが…。でも、それだけでしょ？それらが私たちに与えてくれる幸福感や満足感といったものは、所詮、一時的なもので…。永遠に続くものではありません。そうでしょ！…しかし、この神様が与えてくださる、天の宝は、虫や錆で傷物になることもないし…。泥棒に盗まれることも無い…。永遠に続く祝福なのです。

Ⅲ・ **イスカリオテ** の選択と行動！(10-11 節)

さて、最後に、今日のみことばが教えてくれているのは、**イエス様の弟子であった、“イスカリオテ”の取った選択と行動**であります。どうぞ、今日のみことばの内、10-11 節をご覧ください。そこには、こうあります。

10 ところで、イスカリオテ・ユダは、十二弟子のひとりであるが、イエスを売ろうとして祭司長たちのところへ出向いて行った。

11 彼らはこれを聞いて喜んで、金をやろうと約束した。そこでユダは、どうしたら、うまいぐあいにイエスを引き渡せるかと、ねらっていた。

● **イスカリオテが 優先したもの** ？

さて、このみことばをご覧くださいと、この時、イエス様の弟子であった**イスカリオテのユダが、イエス様のことを売ろうとして、祭司長たちのところへ出向いていったとあります**。…皆さん、どうして、イエス様の弟子であったはずの**イスカリオテが、イエス様のことを売ろうとしたか**分かります？

⇒実は、今日のみことばの平行記事であるヨハネ 12 章で、ヨハネは、こう教えてくれています。『4 ところが、弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしている**イスカリオテ・ユダ**が言った。5 「なぜ、この香油を三百デナリに売って、貧しい人々に施さなかったのか。」6 しかしこう言ったのは、**彼が貧しい人々のことを心にかけていたからではなく、彼は盗人であって、金入れを預かっていたが、その中に収められたものを、いつも盗んでいたからである。**』(ヨハネ 12:4-6)

実は、この時には分らなかったのですが、**イスカリオテは、弟子たちの中で、言わば、会計係を担当して**おまして…。そのお金を常習的に盗んでいた！というのです。…こういったことから、この**イスカリオテの優先していたもの**がある程度、分かります。彼は、お金を非常に愛していたのです。

しかも、それだけではありません。ここマルコ伝で、著者であるマルコが、マリヤの記事をわざわざ、この部分に挿入したのは、これらのことに関連があるからです。そうじゃありません？…先程も言いましたように、マリヤが高価なナルド油をイエス様に捧げた時、それを一番に非難したのは、**イスカリオテ**でした。そうでしょ！…その後、イエス様が、こうおっしゃったわけですが、「何を言うか！この人は、わたしのために、立派なことをしてくれたのです！この女は、自分にできることをしてくれたわけで…。わたしのために、埋葬の準備にと、こんな高価な油を塗ってくれたのです。」って…。そうすると、このマリヤのことを非難した**イスカリオテは、どう感じた**でしょう？…面目が丸つぶれでしょ！…だから、**イスカリオテは、その数日後に、腹い**

せもあって、**イエス様のことを売ろうとして、祭司長たちのところへと行ったのだ**と思われま

す。つまり、**イスカリオテが優先したものは、お金だけではありませんでした。彼は、自分のメンツと言うか、自分のプライド…、あるいは、自分の憎しみといったようなネガティブな感情を、そのまま、優先してしまっ**

たと思われま

す。その**イスカリオテの間違った選択や行動のために、11 節にあるように、祭司長たちは喜んで、本当なら、**超越の祭りの後で、**イエス様を殺そうとしていた計画を前倒しにして…、イエス様のことを殺すという計画**を実行することになるのです。しかし、先程も言いましたように、天の神様は、すべてを御存知でした！神様は、すべてを御存知で、そういったことを旧約聖書でも預言しておいてくださったのです。…つまり、こういったことでも伝わってくるのは、**真の神様という御方がいかに素晴らしいか！**ということです。この神様に、アクシデントとか、想定外などというようなことは有り得ません！すべてのことは、この神様のみこころであり…。この神様のお許しの中で起こっているのです！

● **イスカリオテの 最期** ？

でも、皆さんは、よくご存知のはずです。この後、**イスカリオテが、どうなって…、どんな最期を迎えた**のか？マタイ 27 章では、**イスカリオテの最期について、このように記されて**あります。『1 さて、夜が明けると、祭司長、民の長老たち全員は、**イエスを死刑にするために協議した**。2 それから、**イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した**。3 そのとき、**イエスを売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、**4 「私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして」と言った。しかし、**彼らは、「私たちの知ったことか。自分で始末することだ」と**言った。5 それで、**彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつた**。6 **祭司長たちは銀貨を取って、「これを神殿の金庫に入れるのはよくない。血の代価だから」と**言った。7 **彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした**。8 それで、その畑は、**今でも血の畑と呼ばれている**。9 そのとき、**預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である**。10 **彼らは、主が私にお命じになったように、その金を払って、陶器師の畑を買った。』**(マタイ 27:1-10)

⇒いかがです？…何と、旧約聖書(エレミヤ 19:1-13、ゼカリヤ 11:12-13)には、**約束の救い主が、銀 30 枚で、売られてしまうことなどが預言されて**あったのです！そして、その預言通り、**イスカリオテは、銀貨 30 枚で、イエス様のことを売ってしまったのに、そのイスカリオテは、その銀貨 30 枚を使うどころか、それを後悔して、自殺してしまった**というのです！…いえ、もしも仮に、**イスカリオテが銀貨 30 枚を喜んで使ったとしても、そんなものは一瞬にして無くなって**しまいます。…そうでしょ！

< **励ましの言葉** >

以上、今日は、**祭司長たち…、バタニヤのマリヤ、そして、イスカリオテという3つの選択や行動について**見てきました。最後、簡単にまとめさせていただきますと、**祭司長たちは、激しい嫉妬や妬みに駆られて、神様のみこころではなく…、自分たちの憎しみを一番に優先して**しまいました。その次に見た、あのバタニヤのマリヤは、**神であるイエス様を愛し、そのイエス様のために 300 デナリもの高価なナルド油を惜しみなく捧げました**。それと最後に見た、あの**イスカリオテは、お金や自分自身を愛し、そのために、イエス様を売ってしまったのに、最後には、激しい後悔の中で、みじめな死を迎えて**しまいました

でも、問題は、**私であり…、また、皆さんです**。今日のメッセージの冒頭でもお尋ねしたように、**皆さんは今、何を愛し…、何のために生きておられます？…少し前、マルコ 12 章で学んだ、イエス様のお言葉、**

『29 …「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。』から学んだように、神様のみこころは、私たちが1番に、この神様のことを信じ、また愛することです！ …そうして、次に、私たちの隣人を愛していくことです。

ある意味、今日のみことばは、こういったことの実例について教えてくれているのではないのでしょうか？私
が皆さんにできることは、神様のみこころを皆さんにお伝えすることです。…その後、皆さんが、どうい
うものを愛し…、そういった道を歩んでいくのか？その選択と責任は、皆さんお一人お一人にあります。

一部の人は、こんな誤解をしていますが。…私たちが、神様を愛して、イエス様のみこころに
従っていくことは、決して、自分の人生を棒に振ってしまうことではありません。…その後の人生を、奴隷
のように…、感情を捨てて、生きていくわけでも勿論ありません。

ピリピ人への手紙4章が教えてくれているように、神様にすべてをお委ねして、神様のみこころに従っ
ていくことです。そうする時に、私たち人間が考えるような安っぽい平安じゃない…、『人のすべての考えにま
さる神の平安』が私たちの心や、その行く先を満たしていただくのです。

どうか、皆さんのことを愛して…、皆さんのために、ひとり子であるイエス様のいのちさえ犠牲にしてくださ
って、救いの道を備えてくださった神様のことを、1日も早く、信じ受け入れて…、この神様のみこころに
従う者となっていきましょう！最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。